

「^{けっかん}欠陥」があった方が良い？

—^{こうぶつ}鉱物の価値とは—

一般に^{いっげん}鉱物は、^{ふじゆんぶつ}不純物や^{わりめ}割れ目などが無く、また^{とうめいど}透明度が高いものが美しいとされ、^{こうば}高価です。しかし時には、^{ふじゆんぶつ}不純物や^{わりめ}割れ目などの入った、いわゆる^{けっかん}欠陥品の方が^{ちやう}価値が高くなる場合があります。皆さんのよく知っている「^{すいしゆ}水晶」を例に紹介しましょう。

水晶は、^{せきえい}石英とよばれる^{こうぶつ}鉱物のうち、^{ろくかくちゆうじゆう}六角柱状で先端の^{とが}つたきれいな形のをいいます（写真1）。水晶は、^{こうぶつ}鉱物コレクターの中で「^{こうぶつ}鉱物集めは水晶に始まり水晶に終わる」と言われるほど、^{さまさま}様々な種類があります。

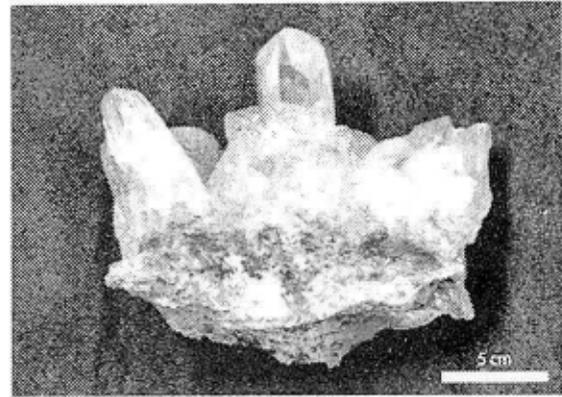
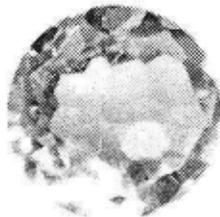


写真1 水晶（山梨県塩山産；当館所蔵品）

一般に水晶は無色透明ですが、他にも^{むらさき}紫水晶（アメシスト）や^{えん}煙水晶（写真2、茶～黒色）、^{ぱらせきえい}バラ石英（ピンク～赤色）など、いろいろな色をした水晶があります。これらの色のちがいは、^{せいぶん}成分のちがいでではなく、^{わづか}わずかに入り込んだ^{ふじゆんぶつ}不純物や、^{こうぶつ}鉱物を作っている^{けつしん}結晶の^{かすり}格子欠陥[＊]によるものです。「^{るちルクォーツ}ルチルクォーツ（写真2）」や「^{くさ}草入り水晶」「^{みづ}水入り水晶」など、水晶の中に別の何か（別の^{こうぶつ}鉱物や水など）が入っているものもあります。また、水晶に^{わりめ}割れ目が入ると、時々^{わりめ}割れ目に^{にじ}虹色の光が見えることがあり、^{れいんぼく}レインボー Quartzとよばれています。

このような水晶は、^{むせう}無色透明の水晶よりも^{めづ}珍しいため、^{にんき}人気があります。一般に「悪い」とされる^{ふじゆんぶつ}不純物や^{わりめ}割れ目などが、^{こうぶつ}鉱物の価値を高めるのです。^{こうぶつ}鉱物の価値は、「^{きうせうせい}稀少性（めづらしさ）」や「^{うつくし}美しさ」、「^{とれた}とれた場所」などによって決まります。しかし、「^{うつくし}美しさ」にはいろいろな^{きじゆん}基準があり、簡単に^{ちやう}価値を決めることができません。どういうものを良しとするかは、人それぞれでいいのです。自分の^{むね}胸にビビッときた石探しをするのが、^{こうぶつ}鉱物集めの楽しさの一つですね。（2011年6月 増淵 佳子）

＊^{こうぶつ}鉱物は、^{かすり}原子や分子とよばれるものが^{きぎ}規則正しく並んでできています。これを^{けつしん}結晶の^{せいれい}整列に例えます。たまに^{かすり}間が抜けていなくなったり、よその^{けつしん}クラスから^{かすり}誰か紛れ込んだり、^{けつしん}列がぐちゃっと^{かすり}乱れたりすることがありますよね。こういう状態を、^{かすり}格子欠陥といえます。



水 晶



煙水晶



ルチルクォーツ
（針入水晶）

写真2 いろいろな水晶。ルチルクォーツは、石英に金紅石という別の^{こうぶつ}鉱物が入っている。